

学校法人京都中央看護師養成事業団 令和4年度事業計画

■事業計画

(専)京都中央看護保健大学校は令和4年度、創立40周年を迎える。これまで、それぞれの時代に求められる看護職者の育成を目指して学校運営を行ってきたが、施設の老朽化への対応や保健師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う新カリキュラムでの教育の実践、18歳人口の減少の本格化への対策など、短期的・中期的にいくつかの課題が見えてきている。

こうした状況のもと、令和4年度は次の5つを重点項目として、(専)京都中央看護保健大学校の安定した運営と令和の時代に適応できる看護職者の輩出のための教育の実践に取り組むこととする。

- 【重点項目】
- 1 安定した学校運営と教育環境の整備
 - 2 18歳人口の減少を見据えた学生確保対策の検討・実施
 - 3 本大学校の独自性を活かした、地域に貢献できるカリキュラムの編成
 - 4 ウィズコロナ時代の「新しい教育」の実現
 - 5 教育実践能力の向上

1 安定した学校運営と教育環境の整備

令和4年度は、開校40周年を迎える節目の年となる。これまで、2,500人を超える卒業生を輩出してきたが、今後も社会情勢の変化やコロナ禍での教育環境、教育手法の変化を踏まえつつ、これからの医療や看護教育、看護職者の需給状況などを見据えながら継続的に安定した学校運営を行う必要がある。

令和元年10月の消費税率の変更に合わせ令和2年度入学生から授業料を改定し、その増収効果が少しずつ上がりつつあるが、一方で、新型コロナウイルス感染防止やICT教育推進のための経費支出が増加し、また、施設・設備・教材の老朽化が確実に進みつつあることによる修繕、更新等の経費支出も増加傾向にある。

今後も継続して、教育機関として学生に保証しなければならない安心安全な教育環境の整備、教材の充実、教育内容の向上など、ハード、ソフトの両面で取り組むべき課題がある。

特に、一時的な大きな支出となる東館の耐震化や施設・設備・教材の老朽化などの対策は喫緊の課題であるが、令和4年度は本館3階看護実習室のリニューアルを行うことを第一とし、東館の耐震工事については引き続き学校法人の財政状況とコロナ感染防止のための活用状況を見極めながら、慎重に対応を判断することとする。

2 18歳人口の減少を見据えた学生確保対策の検討・実施

令和3年度に実施した入学試験は、受験生が前年度の45%減という結果になった。入学定員は確保できる見込みではあるが、非常に厳しい結果となった。ただし、これは(専)京都中央看護保健大学校だけでなく、看護学校の全国的な傾向となっている。

理由として考えられるなかで今後の影響を含めて最も大きな課題は、18歳人口の減少である。令和3年度は令和2年度より全国で約2万人減少した。今後は、令和4年度に約2万4千人、令和5年度に約3万5千人が減少し、令和13年度には令和2年度より13万4千人減少するとされている。高校生の大学志向の強さに変化がなく、大学の入学定員が減らなければ、減少分はそのまま専門学校に影響することになる。令和3年度の入試結果はそうした懸念がまさしく現実となった結果であり、今後早急に対策を検討する必要がある。

については、中期的な対策として施設設備の拡充や教材の充実など、(専)京都中央看護保健大学校が「魅力ある学校」として認知されるための検討を進めていきたい。また、短期的な対策としては、コロナ

禍でも受験生等と接触できるオンラインやSNS、動画などを活用した募集活動を行い、受験者数の回復に取り組むこととする。

3 本大学の独自性を活かした、改正カリキュラムの施行

令和3年4月1日に保健師助産師看護師学校養成所指定規則と看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインが改正され、令和4年4月入学生から新カリキュラムでの実施となる。新カリキュラムの申請に向けて、教育理念をもとに各学科で3つのポリシーを明確にし、特徴あるカリキュラムを構築した。第40期生からは構築したカリキュラムを実際に運用し、完成する4年目を目標に評価しながら進めていきたい。

また、現行運用しているカリキュラムについても、新カリキュラムで検討した内容を活かし、より良いものとなるように進めていきたい。

4 ICT(情報通信機器)を活用した「新しい教育」の実現

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ICT(情報通信機器)が急速に導入された。対面授業が通常だった教育方法から、オンライン・オンデマンドという新たな教育方法が必要となった。導入時はICTの使用法、Microsoft365内アプリteams、会議用アプリzoomの授業での活用法、学生が効果的にツールを活用できるための工夫など、手探りの状態で進めてきた。

これからは、教育を充実させるためのICTの効果的な活用に向けて開発していくことが必要となる。令和4年度から小・中・高校の本格的な電子書籍化に伴い、本大学もiPadによる電子書籍の導入を進めていく。視聴するためのICTではなく、機器の用途を最大に活用し、教育に役立てられるICTとなるよう研鑽していくことが必要である。

ICTは便利であるが、個人情報保護に関することや、倫理的な価値観に左右されるリスクも多く抱えている。これらを再度検証しリスクを理解して活用していくことも課題である。

オンライン・オンデマンドにより、遠隔地の人々との交流が容易になっている。他施設との教育の交流、情報交換も容易である。このような強みを活かして、教育交流の機会を増やすことも「新しい教育」の取り組みとして有効であるため積極的に進めていきたい。

5 教育実践能力の向上

近年、本大学では、入試倍率の低下から、低学力及び課題の多い学生が増加する一方、コロナ禍の影響を受けて臨地での体験が減少するなど、看護職として求められる能力とギャップが広がる傾向にある。こうした学生を一定のレベルまで引き上げるためには、これまで以上に教員個々の教育実践能力の向上が重要となる。

こうしたことを受けて、今年度は教員が学生集団の学習状況を的確に把握し、教育目標の達成に向けて教育方法を開発し、丁寧でわかりやすい授業を展開できる能力を身につけられるよう、授業(教材)研究・看護実践及び技術習得向上に向けた実習指導能力・ICT活用・学生指導等において研修する環境や実践する機会を提供し、学生に対する教育の質を高めていくことに取り組むこととする。

また、教員自身の専門職としての研究・マネジメント能力・コミュニケーション能力の伸長に向けて自己研鑽に励む動機付けを行い、成長を支援する。

■主な学校行事計画

令和4年	4月	7日	ユニフォーム採寸・感染症抗体価検査／新入生
		8日	始講式／在校生
		11日	第40期生入学式
		12日	新入生オリエンテーション(~14日)
		21日	講師会
		28日	実習指導者会議
		//	領域別看護学実習
	5月	17日	健康診断／両学科1・2年次生
		25日	春期レクリエーション祭・新入生歓迎会
		未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第34回理事会・第34回評議員会
	6月	13日	前期試験①／両学科1.2年次生(~14日)
		16日	特別講演／両学科1・2年次生
		18日	第1回オープンキャンパス
		未定	薬物に関する講習／両学科1年次生
	7月	5日	前期試験／両学科3年次生(~8日)
		16日	第2回オープンキャンパス
		20日	学生夏期休業(~8月19日)
		27日	実習指導者会議・夏期研修会
	8月	6日	第3回オープンキャンパス
		20日	第4回オープンキャンパス
		未定	解剖見学／両学科1年次生
	9月	17日	第5回オープンキャンパス
27日		前期試験②／両学科1・2年次生(~10月1日)	
10月	15日	第6回オープンキャンパス	
	19日	関西看護学生看護研究大会	
	29日	看護研究発表会／両学科4年次生	
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第35回理事会・第35回評議員会	
11月	5日	指定校推薦入学試験	
	11日	学校祭	
	15日	保護者会／両学科	
	19日	公募推薦入学試験前期	
	未定	第1回学校運営会議	
	//	宣誓の日／両学科1年次生	
12月	10日	公募推薦入学試験後期	
	14日	後期試験／両学科4年次生(~16日)	
	25日	学生冬期休業(~1月7日)	
	未定	第2回学校運営会議	
令和5年	1月	10日	一般入学試験前期(~11日)
		12日	後期試験①／両学科1・2年次生(~13日)
		18日	実習指導者会議
		未定	第3回学校運営会議
	2月	8日	開校記念日

	18日	一般入学試験後期
	未定	保健師国家試験
	//	看護師国家試験
	//	第4回学校運営会議
3月	1日	後期試験②／両学科1・2・3年次生(～3月6日)
	13日	第37期卒業式
	15日	健康診断／両学科2・3年次生
	20日	学生春季休業(～4月7日)
	未定	学校法人京都中央看護師養成事業団 第36回理事会・第36回評議員会
	//	卒業講演
	//	卒業生を送る会
	//	防災訓練